

平成26年 3 月期第 3 四半期 決算説明会資料

株式会社ユビキタス

代表取締役社長 佐野 勝大

© 2014 Ubiquitous Corporation. All rights reserved.

This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous makes no warranties, express or implied, in this summary.



Ubiquitous

Agenda

- 第3四半期業績の概要
- 通期業績の修正について
- セグメント・製品分野別動向

業績の概要

第3四半期の概況

予想よりやや低調に推移

- 売上高は、552百万により、前期比**14.5%減**
- ゲーム向け以外の売上高は、前期比**16.3%増**
- 営業損失**370百万円**
- 2014年2月12日 通期の業績予想を下方修正

第3四半期の概況

セグメント・分野別概況

事業	分野	概況
組込みソフトウェア事業	ネットワーク	•無線LAN、ECHONET Liteなど堅調 •車載分野での引き合い活発化
	データベース	•既存顧客ロイヤルティ、サポートによる売上計上 •OA機器の新規包括開発契約締結
	高速起動	•車載を中心に複数の案件開発継続、獲得も売上は低調 •製品化、収益化には一定の時間を要する傾向
サービス事業 (新規事業)		•大型集合住宅の電力関連案件の追加受注 •IoTクラウドプラットフォーム「dalchymia」リリース、事業化スタート

第3四半期業績の概要

(百万円未満切捨)

	前年同期 (百万円)	H26年3月期 第3四半期実績 (百万円)	前年同期比
売上高	646	552	△14.5%
営業利益	△34	△ 370	—
経常利益	△26	△ 368	—
純利益	△77	△ 477	—
一株純利益 (円)	△9.08	△ 53.85	—

製品分野別の売上高進捗

	分野	前年同期 (百万円)	H26.3月期 第3四半期 (百万円)	増減率
組込み ソフトウェア 事業	ネットワーク	398	243	△38.8%
	データベース	80	84	5.7%
	高速起動	156	77	△50.8%
	小計	634	405	△36.2%
サービス 事業	サービス プラットフォーム	11	147	1200.8%
合計		646	552	△14.5%

セグメント別売上及び利益

	組込み ソフトウェア 事業	サービス事業	合計
売上高 (百万円)	405	147	552
セグメント利益 (百万円)	△196	△174	△370

貸借対照表（資産の部）

（百万円未満切捨）

	平成25年12月31日 （当四半期末）	平成25年 3月31日 （前期末）	増減額
流動資産	1,252	1,536	△283
現金及び預金	498	767	△269
売掛金	211	242	△30
その他	542	526	16
固定資産	617	744	△127
資産合計	1,869	2,280	△410

貸借対照表（負債・純資産の部）

（百万円未満切捨）

	平成25年12月31日 （当四半期末）	平成25年 3月31日 （前期末）	増減額
負債合計	100	114	△14
流動負債	65	81	△16
固定負債	34	32	1
純資産合計	1,769	2,166	△396
資本金	607	570	36
資本準備金	577	540	36
利益剰余金	554	1,032	△477
負債純資産合計	1,869	2,280	△410

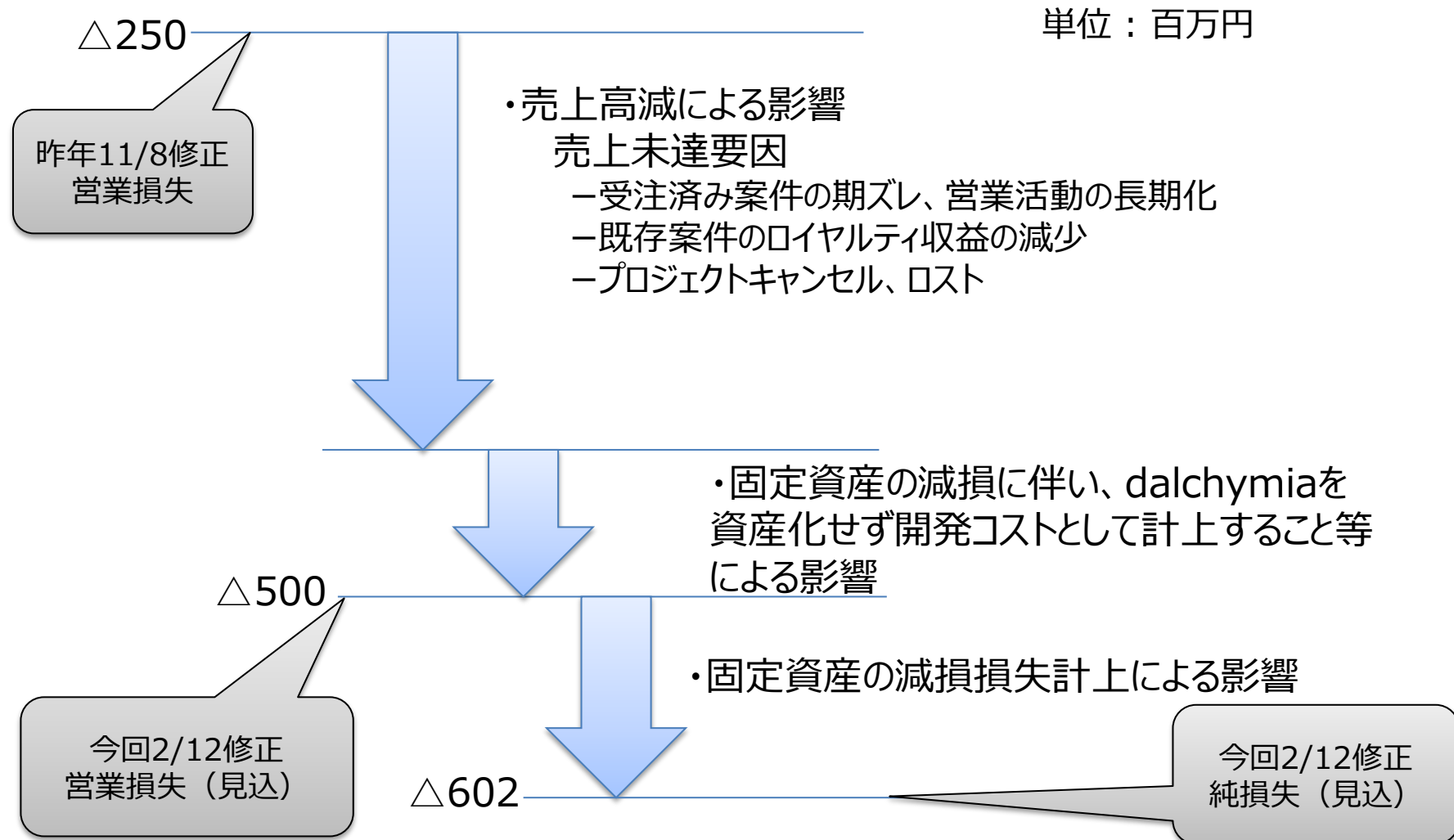
通期の業績予想 修正

通期業績予想の修正 (H26.3月期)

	前回予想(A) (百万円)	今回修正(B) (百万円)	増減額(B-A)
売 上 高	930	720	△210
営 業 利 益	△250	△ 500	△ 250
経 常 利 益	△250	△ 500	△ 250
純 利 益	△260	△ 602	△ 342
一 株 純 利 益 (円)	△29.21	△ 67.39	△38.18

(注) 10月1日を効力発生日として、普通株式数1株を100株に分割し、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。

業績予想（昨年11/8）とのかい離要因

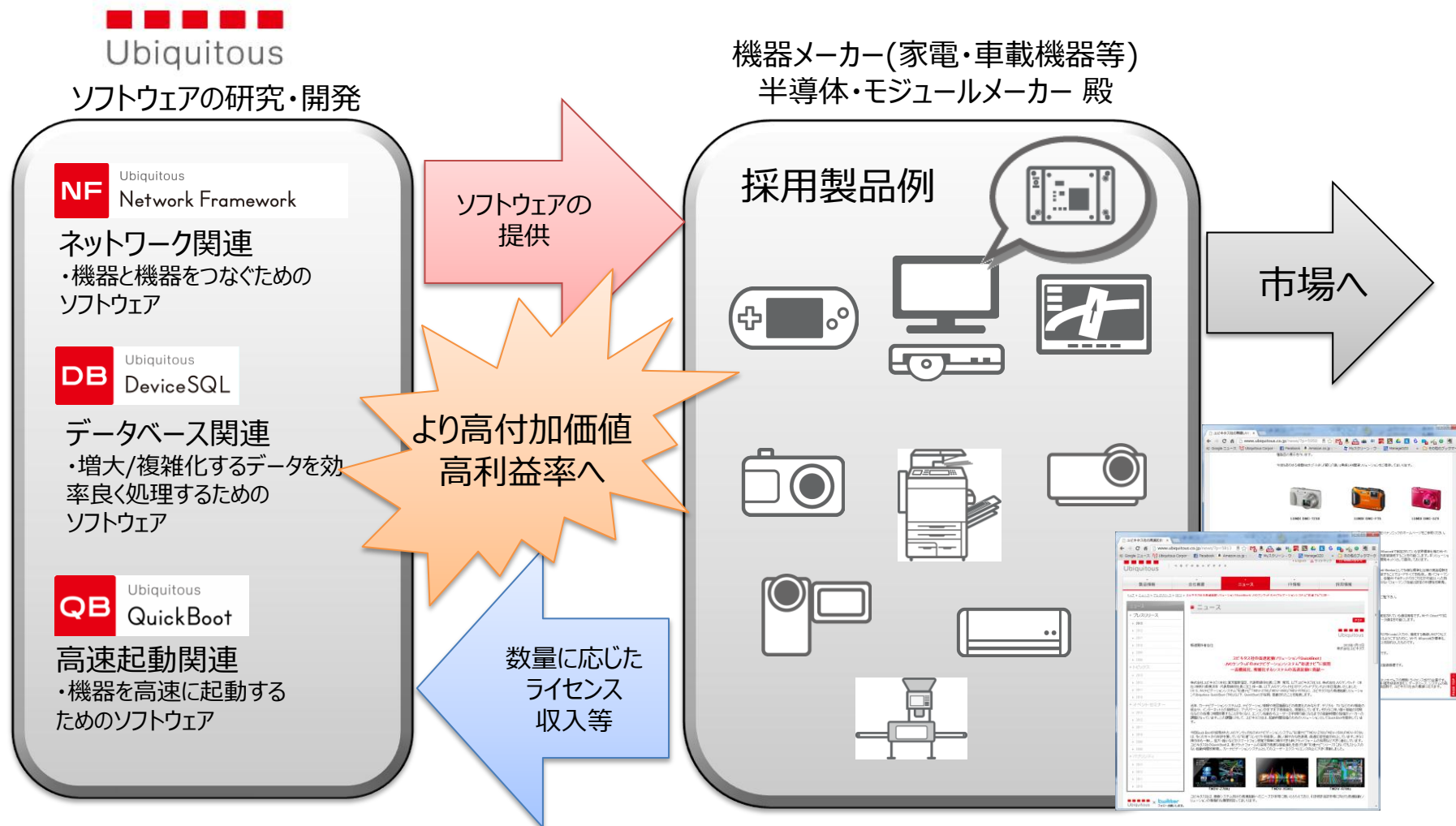


通期業績予想に対する進捗

	第3四半期実績 (百万円)	修正 (2/12) 通期業績予想 (百万円)	進捗率 (%)
売上高	552	720	76.8
営業利益	△370	△500	—
経常利益	△368	△500	—
純利益	△477	△602	—

セグメント及び分野別 動向と取り組み

組込みソフトウェア事業



※採用された製品のうち、お客様の了解を得た商品についての採用事例はプレスリリース等で公表いたしております。

■ 事業全体

- 車載、デジタルカメラ、OA分野などで受託開発、ロイヤルティ収益など比較的順調に推移
- ECHONET Liteなどホームネットワーク関連で新規顧客を獲得、案件の活発化

■ (株)村田製作所との協業進捗

- 家電ネットワーク関連での顧客向け大型案件の開発がほぼ完了
- 車載関連での協業拡販を活発に展開中：2014年1月米国で開催のCES2014米国村田製作所ブースにてUbiquitous Miracast™ Solutionをデモ展示

■ 今後に向けて

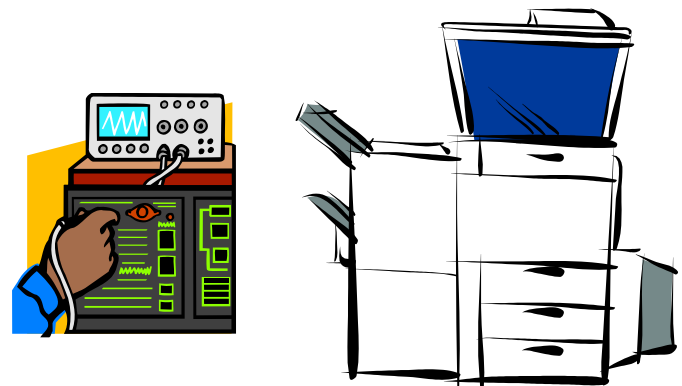
- 獲得済車載関連案件の確実なクローズ
- スマフォと車載機器の無線ディスプレイ技術のMiracastの拡販加速
- 車載、スマートホーム関連の次世代技術開発を加速

■ OA機器、産業用機器でのロイヤルティ獲得

- OA機器メーカーとの包括契約を締結
- 業務用MFP、産業用機器が好調、新規案件も獲得

■ 今後に向けて

- 既採用分野、産業機器分野での新規顧客獲得により安定した売上確保



■ 車載機器（カーナビ） 関連中心に拡販中

- カーナビ各社の多数に浸透、開発進行中も収益化には時間がかかる傾向
- 既存採用案件の横展開、新規開発案件の獲得
- 富士通テン様、JVCケンウッド様など採用済メーカーからの製品発売

■ パートナー拡充

- ルネサス エレクトロニクスとのパートナーシップによる拡販継続
 - ・ パートナーカンファレンス、展示会などで共同デモ展示、拡販などを継続

■ 今後に向けて

- 車載向け最新CPUプラットフォームの対応拡大
- 進行中案件からの次機種横展開
- パートナー通じた拡販の強化



AVN-ZX03i

QuickBoot採用製品
富士通テン社様 AVNナビ ECRIPS
2013年秋モデル
AVN-ZX03i

新セグメント： サービス事業

■ 電力関連で大型集合住宅の案件の追加受注による売上計上

■ 電力見える化サービス

- ・ 引き続き、事業者向け関連の案件での引き合いが活発

■ 今後に向けて

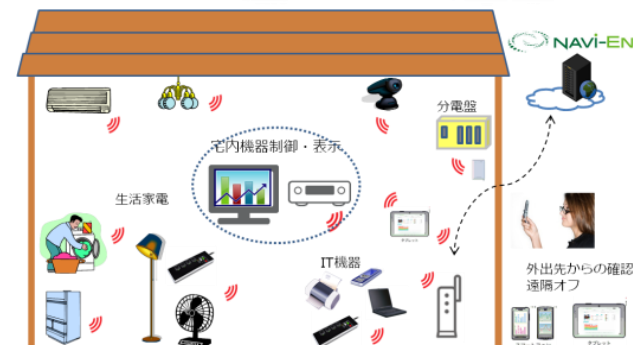
- － パートナー含めた電力関連の事業者向け案件受注体制の強化
- － ECHONET Lite(ホームコントロール) のクラウド連携対応
- － 事業化を開始した「dalchymia」の収益化



NAVI-ENE PLUG
ナビエネプラグ



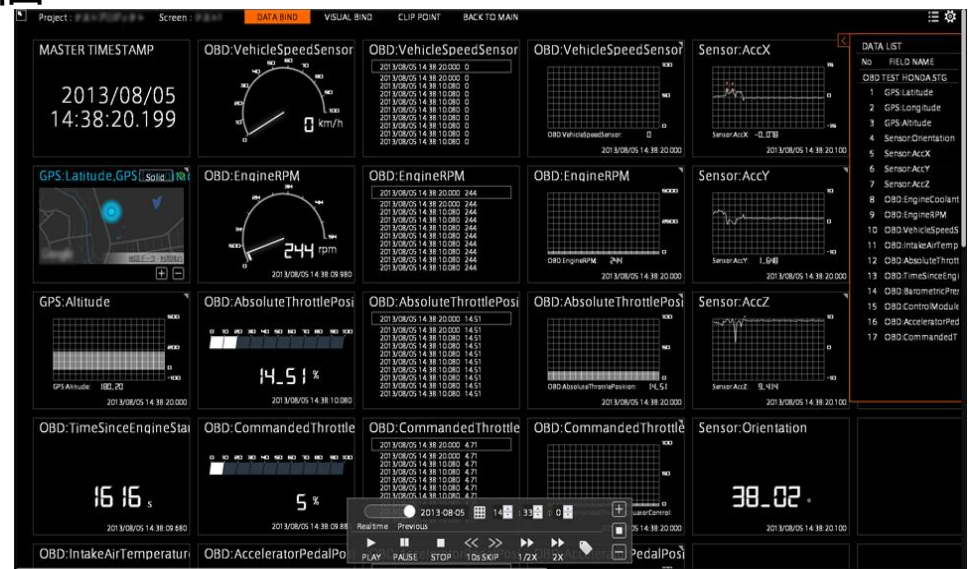
NAVI-ENE MASTER
ナビエネマスター



トピックス

IoTデバイスクラウドサービス 事業化開始

- 2014/2/12 IoTデバイスクラウドプラットフォーム「dalchymia(ダルキュミア)」をリリース、事業化開始を発表
 - 様々な機器のデータを低コストで簡単に管理、可視化できるクラウドベースのシステム
 - 自動車関連、エネルギー管理、ヘルスケアなどで一部先行評価プロジェクトがスタート



質疑応答概要

【Q】

修正した通期業績の水準（売上、利益（損失））からすれば、収支トントンになるには、14、15億円の売上が必要であると試算しましたが、理解として適切でしょうか？

これと関連しますが、ゲーム以外の売上が前年同期比で約16%伸びているという結果を踏まえて、仮に、来期以降、年率20%売上が増加すると仮定しても、14、15億円までは4、5年かかる計算になります。つまり、赤字脱出まで4、5年かかる印象を受けましたが、その理解で正しいでしょうか？

【A】

来期の事業計画及び3カ年の中期経営計画は策定中ですが、収支トントンになる売上水準は、そこまでは大きくならず、赤字脱出までの期間もこれから4、5年はかからないと考えております。

仮に、当社が、受託開発中心の会社であれば、案件数に応じたコストが発生し、利益率がどのくらいか予測ができ、収支トントンになる売上水準は、14、15億円となる試算も合理的かもしれません。

しかし、当社は、自社の製品を作って、それを売ることによってロイヤリティという形で将来の収益を獲得していく会社ですので、案件の利益率は魅力ある製品を作って、売ることができるかによります。そのひとつの例ですが、ゲームへの採用一つで利益率が60%を超えたこともあります。

簡単に、ひとつの製品で同規模の結果を実現できるとは考えてはおりませんが、現在のコストレベルを十分に賄える収益をあげることでできる製品を作り出せる自信があり、そのための来期の事業計画であったり、中期経営計画を検討しているところでございます。

また、他の根拠としては、この3年間、注力セグメントを変えてきたことがあげられます。

従来、デジタル家電中心に展開しており、一昨年までは、AV機器案件が当社の売上の上位を占めておりましたが、昨年は、デジタルカメラ案件や車載機器案件が上位を占めるようになりました。本年は、さらに、車載分野とスマートエネルギー分野に注力したため、これらの新規案件が売上の上位を占めております。これらの案件は、現時点では、ゲーム関連の売上減を補うほどに売上、収益に大きく貢献しているものではありませんが、日本の経済としても、スマートエネルギーや車載関係は、2020年までかなり市場として広がってくると予測しており、そこに密着していくことで収益化の道筋が早い段階で出せるものと考えております。今期、来期、再来期の3年のスパンで、今期注力しているところが、相当数収益化が期待できる案件をパイプラインとしてもっていますので、そういうものを見込んでいくと計画としては着実に積み上げていけるのではないかと考えております。



Ubiquitous

株式会社ユビキタス Ubiquitous Corporation

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-10-1 日土地西新宿ビル 20F TEL:03-5908-3451 FAX:03-5908-3452